

平成26年度 病虫害発生予報 第11号

平成27年2月20日
栃木県農業環境指導センター

○果菜類の灰色かび病の発生に注意しましょう！

予想期間 2月下旬～3月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**やや多**
- (2) 根拠 ・現在の発生は平年並（平年比：ほ場率82%、発生株率75%）。(±)
・向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(+)
- (3) 対策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水は必要最小限にとどめる。
発病果、果梗等は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・防除は予防を主体にファンタジスタ顆粒水和剤、ジャストミート顆粒水和剤等を葉裏にも良くかかるように散布する
- (4) 備考 ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
・[「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根拠 ・現在の発生は平年並（平年比：ほ場率110%、発生株率108%）。(±)
・主要薬剤の殺虫効果が低下しており、密度抑制が困難である。(+)
・向こう1か月の日照時間はやや少ない。(－)
- (3) 対策 ・ハダニ類は下葉の裏にすることが多いので、必要に応じて葉かきを行い、薬剤が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
・天敵製剤の放飼前には、必ず一度ハダニ類を防除して密度を下げる。また、薬剤は天敵に影響のないものを選択し、放飼後も1～2週間は薬剤散布しない。
・天敵を導入したハウスでは、ハダニ類が部分的に発生しやすい。部分的に糸が張るような場合には、気門封鎖剤をスポット散布する。
・天敵製剤は適宜追加放飼することで効果が安定する。
- (4) 備考 ・[「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根拠 ・現在の発生量が多い（平年比：ほ場率244%、発生株率：271%）。(+)
・向こう1か月の日照時間はやや少ない。(－)
- (3) 対策 ・発生株周囲のマルチ上には、脱皮殻や排泄する甘露が付着するため、気をつけて観察し、見つけたら早期に防除する。
・発生が見られたら、ウララDFやチェス顆粒水和剤で防除する。なお、両剤とも遅効的なため、5日程度経ってから効果を確認する。

4 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少**
- (2) 根拠 ・現在の発生はやや少ない（平年比：ほ場率55%）。(－)
・前年秋期のアザミウマ類の発生は平年並～やや多い。(+)
・向こう1か月の日照時間はやや少ない。(－)
- (3) 対策 ・発生が見られたら、低密度のうちにカウンター乳剤やマッチ乳剤[シキリアザミマ]等のIGR剤で増殖を防止する。
・花を観察して、その1割以上でアザミウマ類が見られた時は、被害が大きくなる恐れがあるため、スピノエース顆粒水和剤かディアナSCを散布する。
- (4) 備考 ・秋期にアザミウマ類の発生が多かった施設では、注意が必要である。
・スピノエース顆粒水和剤やディアナSCは、天敵やミツバチへの影響があるので注意する。
・[植物防疫ニュースNo.20（いちご：アザミウマ類）](#)、[「園芸作物と花きに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果（続報）」](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや多
- (2) 根 拠 ・現在の発生は平年並（平年比：ほ場率87%、発生株率67%）。(±)
・向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面の結露を除去する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・防除は予防を主体にダイマジン、セイビアーフロアブル20等を葉裏にも良くかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・微生物防除資材（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に利用する。また、低温条件では効果が出にくいので、10℃以上が確保できる施設内で使用する。
・[植物防疫ニュースNo. 19\(トマト：灰色かび病\)](#)、[「野菜類灰色かび病の薬剤感受性検定結果①、②」](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・現在の発生はやや多い（平年比：ほ場率174%、発生株率217%）。(＋)
・向こう1か月の降水量はやや多く、日照時間はやや少ない。(＋)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
・肥切れ等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き施設外で処分する。
・発生が見られたら、ポリオキシシリンAL乳剤やカリグリーン等を散布する。
- (4) 備 考 ・抵抗性品種でも発病するレースがあるため、発生に注意する。
・[植物防疫ニュースNo. 17\(トマト：葉かび病\)](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

| | | 現 況 | 発生予想 | | | 現 況 | 発生予想 |
|-----|--------|-----|------|------|------|-------|------|
| いちご | うどんこ病 | 少 | やや少 | きゅうり | べと病 | 少 | やや少 |
| | コナジラミ類 | 平年並 | 平年並 | | にら | 白斑葉枯病 | やや多 |
| トマト | コナジラミ類 | やや少 | やや少 | きく | ハダニ類 | 平年並 | 平年並 |

春の病害虫防除対策

- 水稲 イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ媒介）
・本年もイネ縞葉枯病の多発が県中南部で懸念されます。被害の多かった地域では抵抗性品種への作付け転換や、同病媒介虫のヒメトビウンカの防除を行いましょ。また、飼料用イネも同様に防除を行いましょ。
・植物防疫ニュース（速報No. 4、18）を当センターHPに掲載中。
- いちご親株床
・親株床には病害虫の発生していない株を選別し、定植しましょ。
- 施設野菜類の微小害虫
・施設野菜類のハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類といった微小害虫は、気温の上昇に伴い、急増しましょ。ほ場をこまめに観察し、発生初期の防除を心掛けましょ。

1か月気象予報（予報期間2月14日から3月13日 2月12日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は、平年並の確率50%です。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

| | 低い（少ない）確率 | 平年並の確率 | 高い（多い）確率 |
|-------|-----------|--------|----------|
| ○気温 | 20% | 50% | 30% |
| ○降水量 | 30% | 30% | 40% |
| ○日照時間 | 40% | 30% | 30% |

○農薬の使用方法が変わります

農薬の残留基準値を設定する際に新たな評価項目（短期暴露評価）が導入されたことに伴い、今後使用できなくなる農薬及び使用方法が変更される農薬があります。

農薬をラベルに記載された使用方法で使用した場合でも、今後改めて設定される農作物の残留基準値を超過する恐れがあるので、注意が必要です。

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

